

# 高野参詣道トレッキング

(健脚・中級向き・約14km)

※標高差約400m(笠松峠までの上り200m、笠松峠から相ノ浦までの下り400m)。歩行に充分注意を要する箇所があります。少雨決行。当日6:00現在で、現地に気象警報が発表されている場合は中止します。

# 相浦道と 日本一のトガサワラの樹

令和元年10月20日(日)

集合：高野町役場前9時30分(受付9時00分から)

解散：千手院東バス停前15時30分頃

参加費：1,000円 当日払い(記念品付、傷害保険料・資料代)

定員：30名(先着順、予約制)

電話・E-mailのいずれかで住所・氏名・電話番号をお知らせください。

申込・問合せ：高野七口再生保存会事務局

電話 080-1434-0985 E-mail kouya7kuti@ares.eonet.ne.jp

概略コース：高野町役場前—霊宝館—相浦口—笠松峠—相ノ浦丹生神社—高野トンネル—千手院東バス停

## 相浦道(相浦口)

相浦道は相ノ浦集落から内護山の東を経て笠松峠から高野山に至る高野七口のなかでは最も短い高野参詣道です。なお、相ノ浦から紀伊山地の山々に続く山道は、かつては東方面へは大瀧を経て熊野道、南方面へは花園新子を経て龍神道に合流しました。

## 相ノ浦丹生神社境内のトガサワラ

相ノ浦集落の北に高野山小学校旧相ノ浦分校があり、隣接する丹生神社境内にそびえ立つトガサワラの木は国内最大級とされて和歌山県指定文化財天然記念物として保護が図られています。天然記念物指定時の大きさは、胸高周囲5.23m、樹高35m、樹冠は東西8m、南北8mであつて、平成10年に台風で倒れた三重県熊野市にある胸高周囲6.05mのトガサワラに次ぐもので、**生育木では日本一です。**

トガサワラ(マツ科トガサワラ属の常緑高木)は、明治26年(1893)に紀伊半島南部で初めて確認された日本固有種で、高知県魚(や)梁瀬(なせ)地方及び紀伊半島中南部にのみ分布し、約1000本と推定される希少種であるため「生きた化石植物」ともいわれています(環境省では、絶滅危惧種Ⅱ類(VU)に区分)。

主催：高野七口再生保存会

ホームページ：<http://www.kouyananakuchi.jp>